



令和4年度休眠預金活用事業「九州林業塾」報告書

発行：九州林業塾

休眠預金活用事業について

休眠預金の助成枠：2022 年度新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援助成

資金分配団体名：失業者を救う自伐型林業参入支援コンソーシアム

資金分配事業名：自伐型林業地域実装による森の就労支援事業

実行団体数：全国から 10 団体を採択（応募団体数は 16 団体）

助成期間：2022 年 12 月～ 2023 年 12 月の 1 年間

ねらい

本助成プログラムでは

- ・ コロナ禍や物価高騰の影響を受け、自ら仕事や生き方を変えるきっかけを求める人
- ・ 経済的・環境的に持続可能で災害に強い森づくり手法である自伐型林業の森林経営スタイルに共感する全国の林業就業希望者を対象に、

- ・ 自伐型林業の技術研修・経営指導
- ・ 受講者が自伐型林業を生業として自立していくための山林・機材確保
- ・ 林業関係者の支援体制づくり等の推進を行う総合的な取組みに対して助成を行います。

また、地域の森林を保全しながら持続的な収入を得られる自伐型林業の地域実装を通じ、コロナ禍により生きづらさを感じている人々が、将来に希望を持ち、森林と共生する新たなライフスタイルを歩み始めることを目指します。

実行団体の 10 団体に資金を分配して助成
当団体「九州林業塾」は実行団体の 1 つです。

団体名：九州林業塾 **事業名：**九州林業塾

申請事業の概要：

事業目的

- ①自伐型林業を九州の新たな地域へ展開する
- ②就業支援：山守として就業する機会の創出
- ③山守を必要としている長伐期多間伐施業を基本とする大規模山林所有事業者との連携
- ④九州林業塾の会員としてそのネットワークで継続した指導・情報の共有

事業内容

- ①研修事業：チェーンソー・小型バックホー・林内作業車・刈払機の特別教育、作業道路開設・伐採・造材・搬出等の研修、林業知識教育等、40 日間研修を実施し自立できる自伐型林業者を養成する。
- ②就業情報提供事業 行政、大規模森林所有者と協力し施業林や就業情報の提供を行う。
- ③モデル林整備事業 研修を通じて自伐型林業のモデル林を整備し地域を守る森林の整備を啓発する。

九州林業塾の休眠預金活用事業は今回が 2 回目です。

1 回目

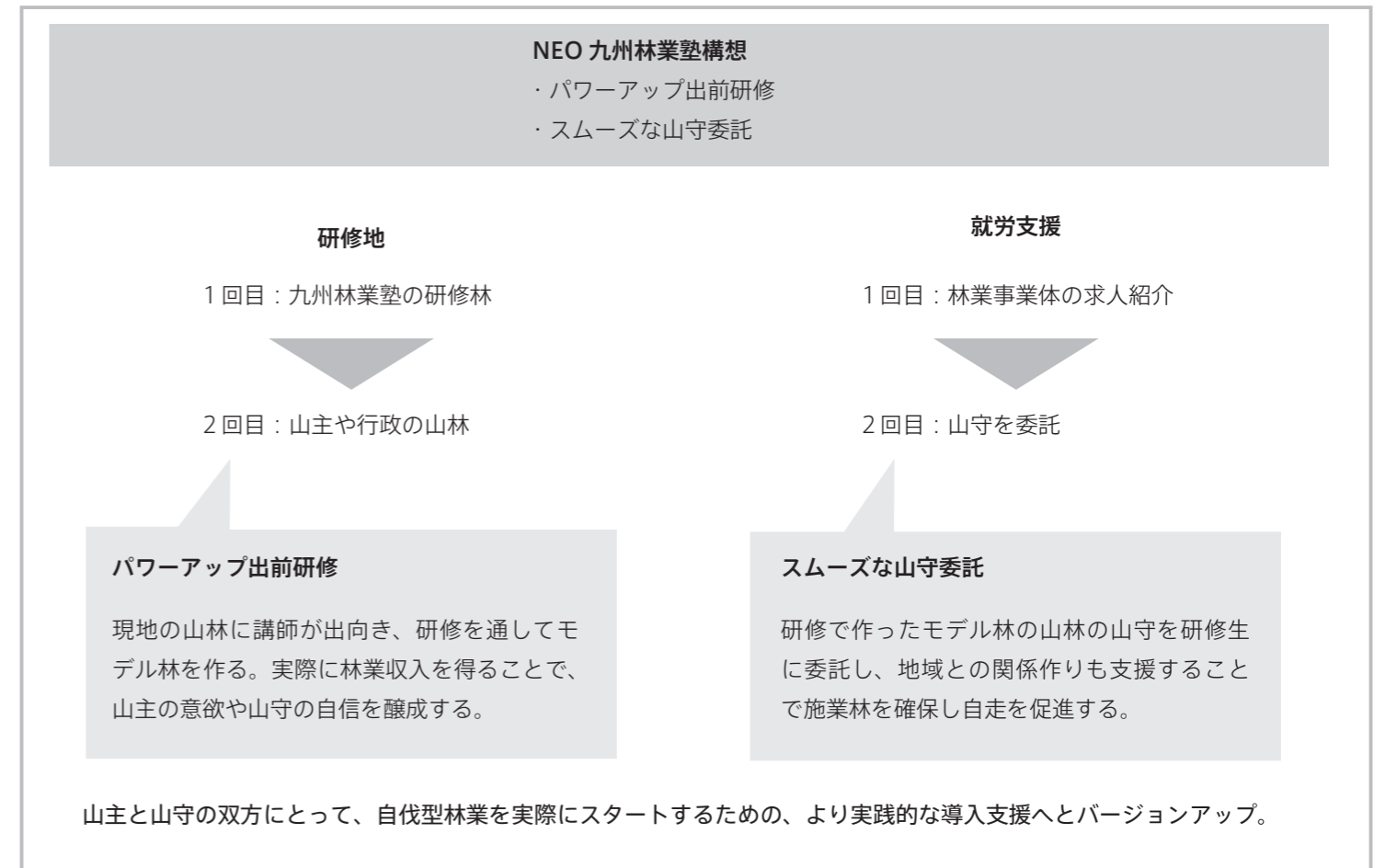
助成枠：2020 年度新型コロナウイルス対応緊急支援助成

資金分配団体：失業者を救う自伐型林業参入支援コンソーシアム

資金分配事業名：失業者を救う自伐型林業参入支援事業

実行団体数：全国から 5 団体を採択

2 回目はさらにステップアップすべく、自伐型林業の確実な“地域実装”を目指す「NEO 九州林業塾構想」を立てました。



今回の九州林業塾の事業実施地域は 2 地域です。

- ・熊本教室（熊本県山江村）
- ・大分教室（日田豊肥地区）

自伐型林業の地域実装を通して、山村部での若者の定住、および地域の防災・復興を見据えた山林整備の契機となることを目指しました。

熊本教室での事業実施概要

出前研修の実施先：山江村、村内複数の生産森林組合

出前研修の背景

令和2年7月の豪雨で被災。土砂災害や河川の氾濫による浸水被害、山腹崩壊などが発生し、人的被害はなかったものの、住家や道路、水道施設など生活基盤や基幹産業である農林業や地場産業などに甚大な被害を受けました。令和3年3月には「鎮山親水」を基本理念とした山江村復興計画を山江村が策定し、住民と行政が一体で取り組む6つのプロジェクトを開始。その1つ「山江の森・水管理推進プロジェクト」の中で、自伐型林業の担い手を育てる「やまえ鎮山親水林業塾」の指導を九州林業塾が担いました。

《被害やプロジェクトについて：「～鎮山親水～山江村復興ポータルサイト」より》

研修事業

基礎研修（山江村より、村有林の提供を始めその他研修を多大にご支援頂きました）

- ・特別教育座学（バックホー、チェーンソー、林内作業車、救命救急）
- ・特別教育実技（バックホー、チェーンソー、林内作業車）
- ・実践研修（バックホー道作り、伐倒、根株掘り起こし、踏査、選木、間伐材造材・搬出、構造物補強作業道開設、洗い越し）
- ・刈払機資格講習
- ・自伐林業施業地見学（福岡八女市星野村）

出前研修

- ・自主企画研修（橋本光治先生を招聘し作業道路研修）
- ・自主研修（城内生産森林組合林地での作業道延伸）

就業情報提供事業

- ・村長の紹介により大規模山林所有者との協議を実施。結果、山主から協力依頼や、依頼の打診があった。
- ・大規模山林所有事業体（日田市）が山江村内に所有する山林での施業

モデル林整備事業

山江村村有林および生産森林組合の共有林において作業道づくり研修や間伐等を実施し、球磨地方で最初となるモデル林が誕生した。他の生産森林組合も場内生産森林組合のモデル林を視察、施業の可能性へ。



実施スケジュール

- 1月： 受講生の募集 トライアル面談
- 1月21日： 開校式（山江村長講話）研修生10名+マスコミ1名でスタート
- 1月22日～2月26日： 特別教育座学（バックホー、チェーンソー、林内作業車、救命救急）
- 3月4日～4月9日： 特別教育実技（バックホー、チェーンソー、林内作業車）
- 4月30日～6月3日： 研修林で実践研修（バックホー道作り、伐倒、根株掘り起こし）
- 6月4日： 刈払機資格講習
- 6月19日： 中間報告会に向けて研修生、山江村役場へのヒアリング実施。
- 7月2日： 福岡八女市星野村の自伐林業施業地見学
- 7月～9月： 実践編研修（踏査、選木、間伐材造材・搬出、構造物補強作業道開設、洗い越し）
- 10月1日： お披露目会
- 10月14日～17日： 出前研修（橋本光治先生の作業道路 研修会）
- 10月22日～11月20日： 自主研修（城内生産森林組合林地 作業道延伸）



当事業のメディア掲載

- 4月15日： 熊本日日新聞『千年の森へ 担い手育成 皆伐せず大樹に 自ら整備 やまえ鎮山親水林業塾（山江村）』
- 5月： 広報やまえ5月号『やまえ鎮山親水林業塾 森の守り方学ぶ』
- 6月21日： KAB 熊本朝日放送 ニュース『自伐型林業の普及目指す 復興理念「災害に強い森林」』
- 6月26日： 西日本新聞（社会面）
『豪雨被災の熊本 広範囲伐採せず土砂崩れ防ぐ「小さな林業」山を守る 間伐に転換「100年先見据え」』
- 7月3日： 人吉新聞（一面）『災害に強い森林づくりへ 自伐型林業を推進 山江村「鎮山親水林業塾」開講』
- 7月4日： 河北新聞『洪水対策に「自伐型林業」 環境負荷抑え山林管理、治水』
- など

大分教室での事業実施概要

出前研修の実施先：研修生の施業予定林

出前研修の背景

13人の研修生のうち7人が山林所有者で、自身で山林整備に従事したい意向がある一方で、技術的・経済的に本当に自分にできるのかどうか迷いもある状況でした。そこで自身の山林で実際に施業して林業収入を得る体験をすべく、九州林業塾が実践的な研修を行いました。

研修事業

基礎研修（生産森林組合の所有林と施設にて実施）

- ・特別教育座学（バックホー、チェーンソー、林内作業車、刈払機、救命救急）
- ・特別教育実技（バックホー、チェーンソー、林内作業車）
- ・講師対象の作業道づくりレベルアップ研修（講師の指導法レベルアップ目的）
- ・技術習得基礎コース

出前研修（各研修生所有林や地域未整備林で実施）

- ・技術習得応用コース出前講習

就業情報提供事業

- ①他団体との協力連携を実施
 - ・大規模山林所有事業体
 - ・生産森林組合所有林での「スギと広葉樹との混交林化」の取組と就業の可能性
- ②研修生関係の未整備林の現状を共有し就業の可能性を検討

モデル林整備事業

- 以下の2ヶ所で実施
- ・豊肥地域：地域未整備林
 - ・中津地域：研修生所有林



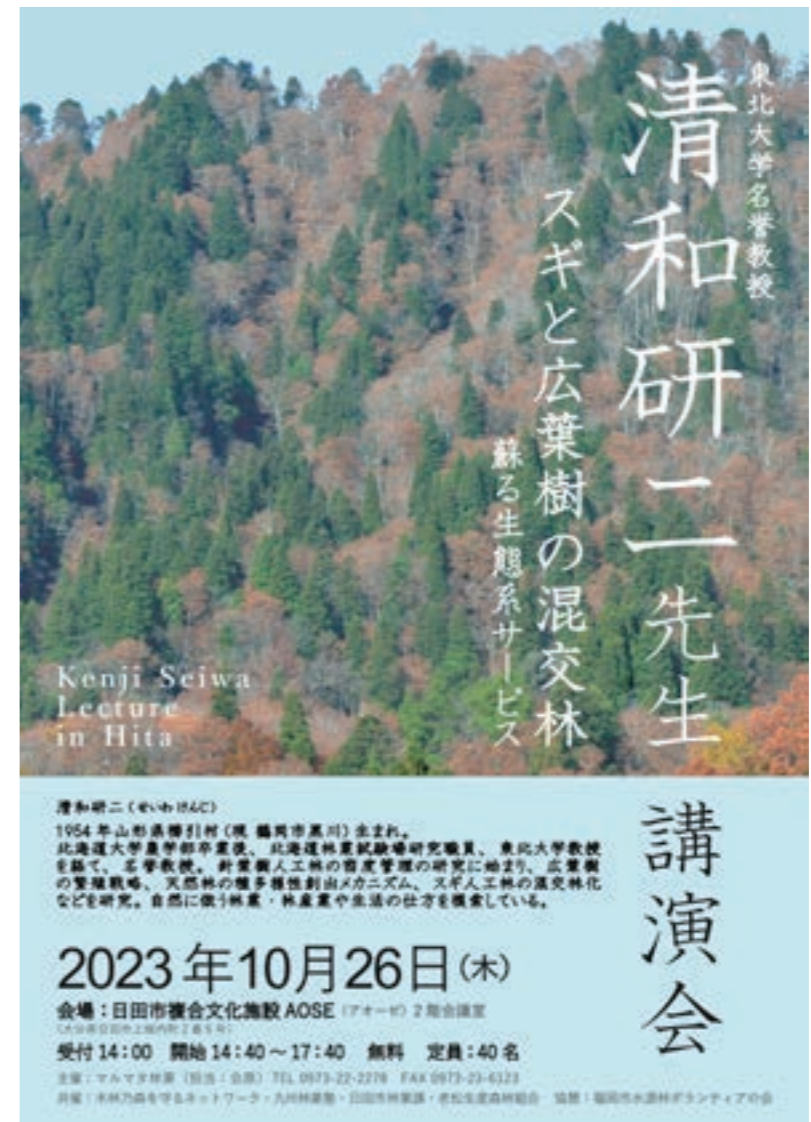
中津地域出前講習



豊肥地域出前講習

実施スケジュール

- 12月： 研修生の募集
- 2月11日： 開講式13名でスタート
- 2月： バックホウ・チェーンソー・林内作業車・刈払機特別教育安全衛生教育座学終了
- 3月： 講師対象の作業道づくりレベルアップ研修（講師の指導法レベルアップ目的）
- 4月： 特別教育実技終了
- 5月： 技術習得基礎コース実施（バックホウ チェーンソー 林内作業車）
- 6月～7月： 技術習得応用コース出前講習＝受講生の所有山林等視察整備方法について協議
- 7月： 技術習得応用コース出前講習＝研修生の所有山林等視察し共に整備方法について協議
- 8月： 技術習得応用コース出前講習＝研修生の所有山林及び地域山林の整備実習及び山林整備手続き修得のための指導
- 9月～： 出前講習の延長
 - 講師の指導の下、研修生自らが所有林及び地域山林整備に従事し収入を得る
 - ・豊肥地域：推進組織結成し地域山林整備に従事～市場への出荷開始
 - ・中津地域：推進組織結成し研修生所有林の整備を開始した
 - ・杵築市、臼杵市：研修生が各1名で、それぞれ所有林の整備を開始。情報交換と整備作業へ相互参画へ



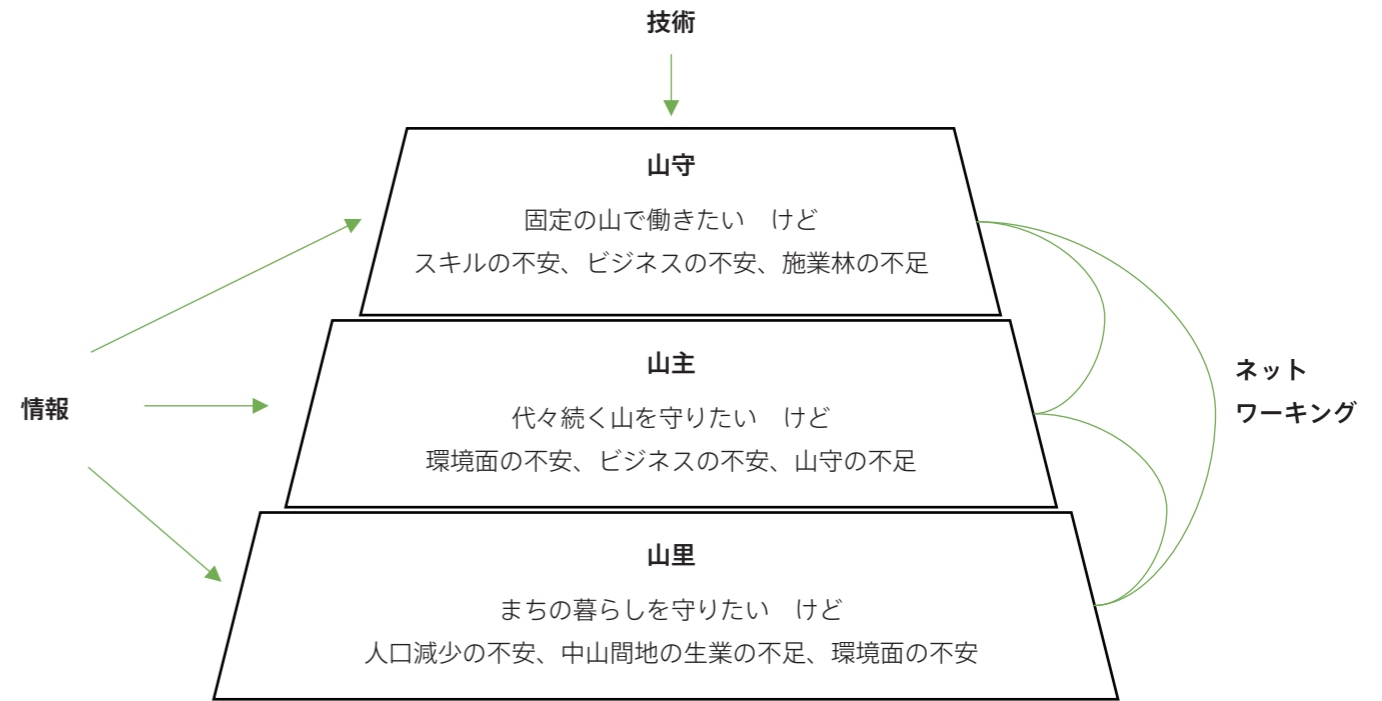
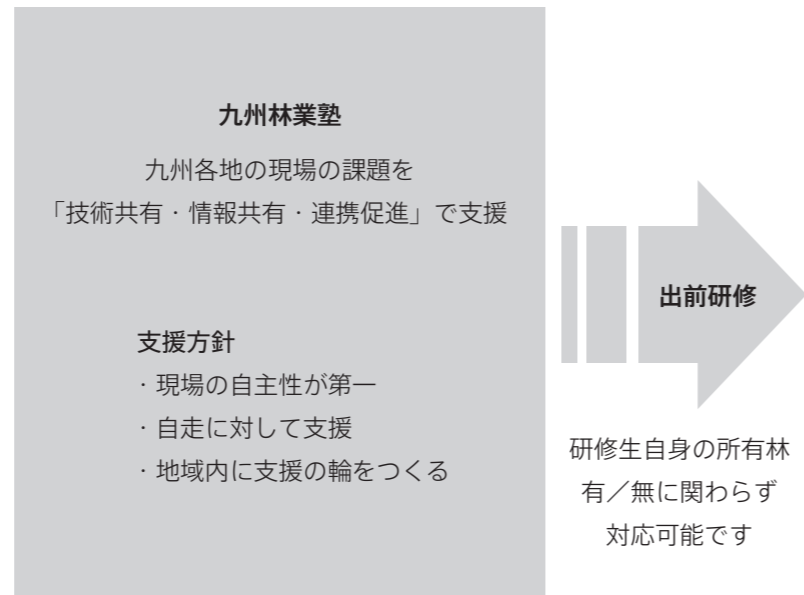
地域の林業会社が針広混交林の講演会を開催しました（九州林業塾は共催）。その後、地域で針広混交林作りに取り組むことが決定し、研修生が施業に関わる可能性へ。

地域実装の成果 STEP 1：個々の気持ちを起こす伴走支援

山守・山主・山里はそれぞれ自伐型林業という手法に期待感を持ちつつも、自らが実際に施業や支援を始めようとなると、最初は不安も大きいものです。自伐型林業は自立自営で永く紡いでいく林業だからこそ、まずは自信や信頼が参入の壁となります。

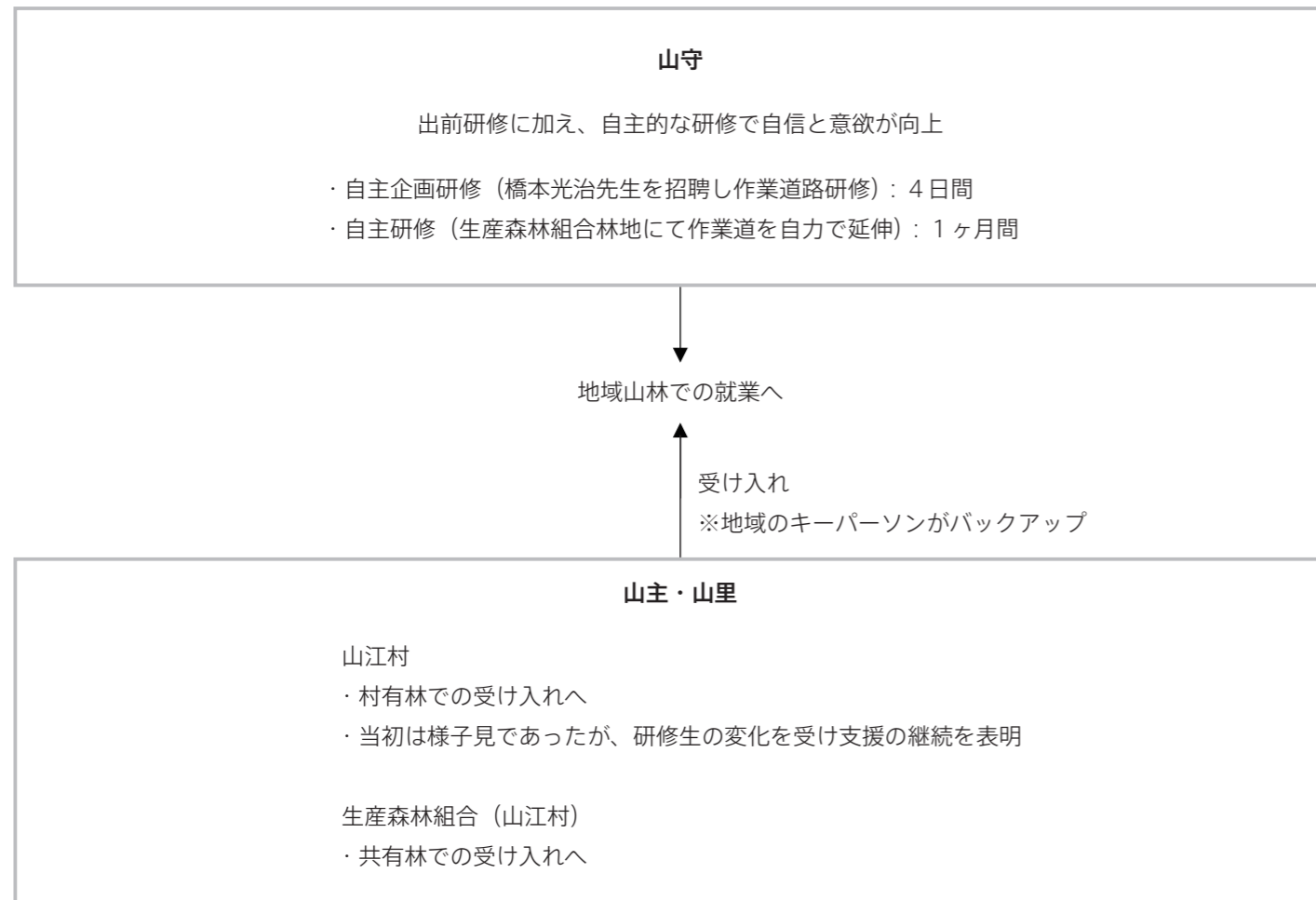
そこで今回の休眠活用事業では、現場における山守・山主・山里のそれぞれ個々人のリアルな課題や不安を少しずつクリアしていくよう「出前講習」を通じた伴走型の支援を行いました。

結果「自分にもできる」「山やまちを守れる」という気持ちで、自らが立ち上がる状態へと一歩踏み出すことができました。



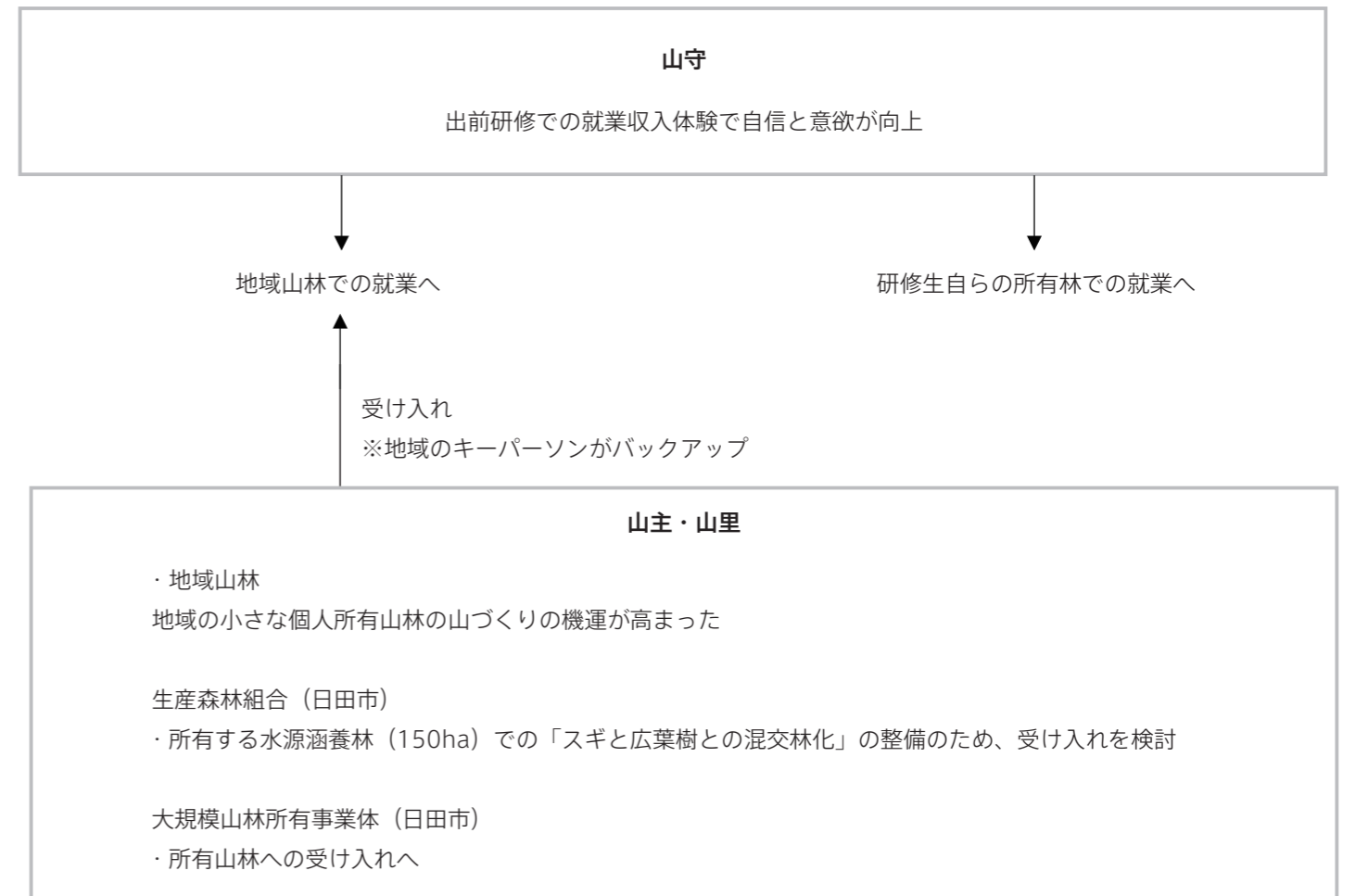
熊本教室

研修生に山林所有者はほぼおらず、就業のためには施業林とのマッチングが必要でした。出前研修を通して研修生が自信と意欲を得てそれを強く示したことで、施業林とのマッチングが実現。就業に至ることができました。



大分教室

研修生13人中7人が山林所有者で、事業後は所有林での就業を開始しました。所有林を持たない研修生も地域の山林での就業を開始。自伐型林業での就業率は76%となりました。

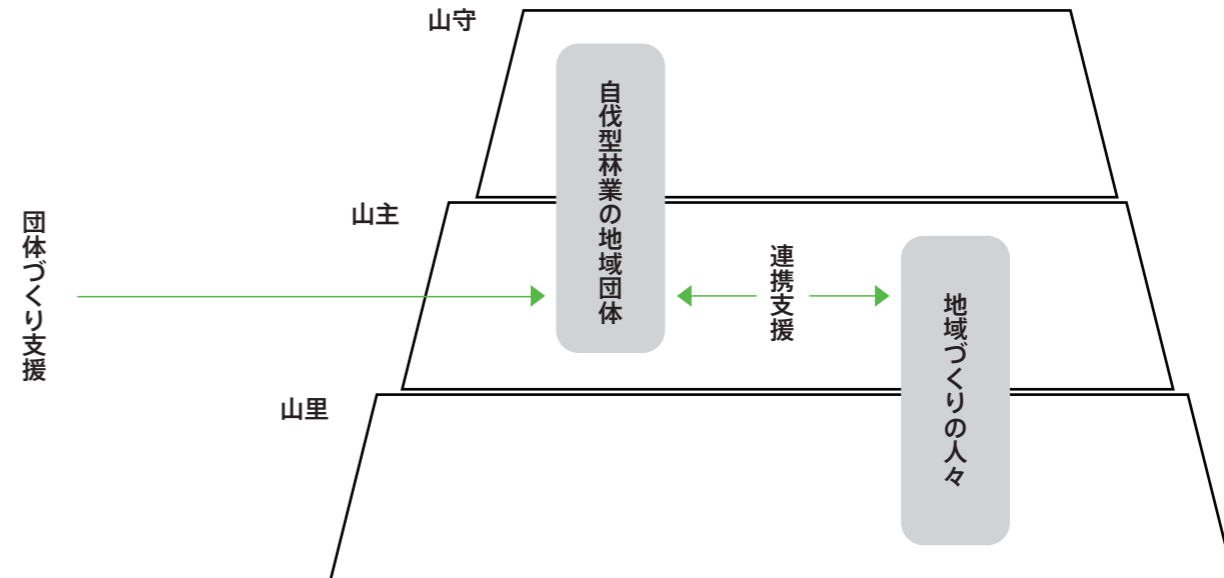
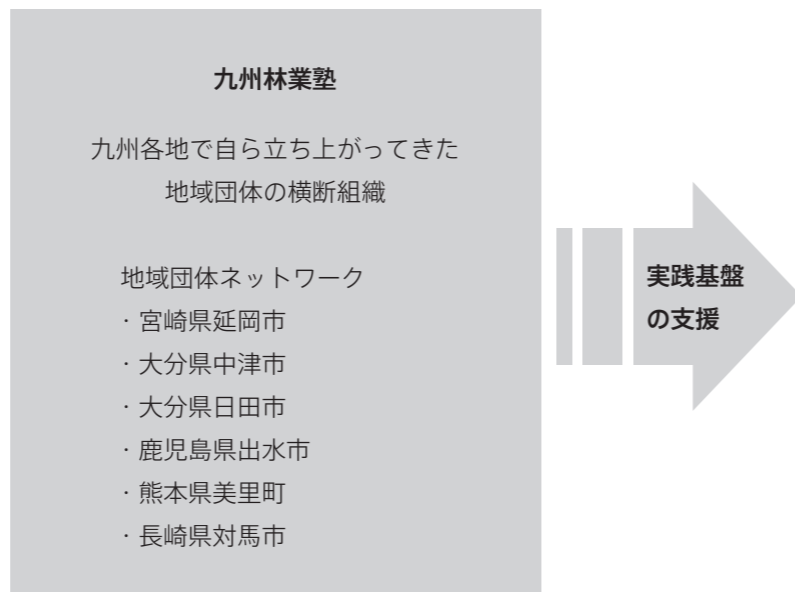


地域実装の成果 STEP 2：地域に面で広げる伴走支援

自伐型林業の地域実装にはスタートアップ期を支援する助成金などの“仕組み”があることが望ましいです。しかしより重要なのは、もう1つの軸として地域実装を推進していく地元の“実践力”が欠かせません。

九州林業塾では、仕組みと実践力の両軸に対して支援を行なっています。仕組みづくりについては自治体に提言を進めています。実践力づくりについては、志のある人をつなぎながら、自主的な活動や影響を面的に広げていく後方支援を行なっています。

今回の休眠預金事業では、地域団体の自主的な立ち上げの支援や、地元キーパーソンとの連携支援、地元の異業種団体との連携支援を実施。結果、自伐型林業を通じた地域づくりが動き出しました。



熊本教室

団体づくり支援



鎮山親水千年の森づくりクラブ

地元民が自主的な団体立ち上げも
山江村の支援継続につながりました

連携支援



環境のキーパーソン つる詳子さん

研修生としてもご参加頂き、
球磨川流域治水との関係構築
と研修生募集もご支援頂きました。

「令和2年の豪雨時の山の崩落に啞然として対策を調べている中で、自伐型林業の道づくりに注目しました。実際に各地の自伐林を訪問して確信を持ったため、流域内での普及に走り回っています。」



地域山林のキーパーソン 松本さん

城内生産森林組合の組合長

「50年前に皆でヒノキを植栽し、立派なヒノキ山になりました。しかし誰も山へは行きませんでした。全伐ではなく間伐を繰り返して、地域に美林を残す自伐型林業に出会えて良かったです。」

大分教室

団体づくり支援

地域ごとに自主的に団体立ち上げ



豊肥地区自伐型林業研究会（豊肥地域）



半林半X耶馬溪チーム（中津市）

研修生が単独の地域も横断してチームを形成



所有林の整備で連携（杵築市・臼杵市）
宇佐市の一期生も応援

連携支援



豊肥地区地域づくりの キーパーソン

所有林の無い近隣受講生と
地域の山主との結びつきを
ご支援頂きました。



筑後川水源地と下流域との交流

休眠預金活用事業の実施目的に対する成果

実行団体の事業目的

- ①自伐型林業を九州の新たな地域へ展開する
→ 熊本教室・大分教室ともに、自伐型林業の空白地帯において、地域実装の一步を踏み出すことができました。
- ②就業支援：山守として就業する機会の創出
→ 熊本教室・大分教室ともに、研修生の所有林または地域山林にて就業に至りました。
- ③山守を必要としている長伐期多間伐施業を基本とする大規模山林所有事業体との連携
→ 熊本教室では山江村と生産森林組合との連携、大分教室では林業会社と生産森林組合との連携ができました。
- ④九州林業塾の会員としてそのネットワークで継続した指導・情報の共有
→ 熊本教室・大分教室ともに、研修生の地域団体または個人で、九州林業塾の会員へ参加の見込みです。

休眠預金活用事業によって、九州林業塾自体もパワーアップ！
今後さらに充実した支援が可能となりました



今回の事業で熊本と大分に新たにメンバーが増えたことで、九州各地での情報共有ネットワークがさらに強化されました

新施策「出前研修」により、現場エリアでのマッチング／コーディネートのノウハウ、自主性を引き出すノウハウがさらに強化されました

資金分配団体の事業目的

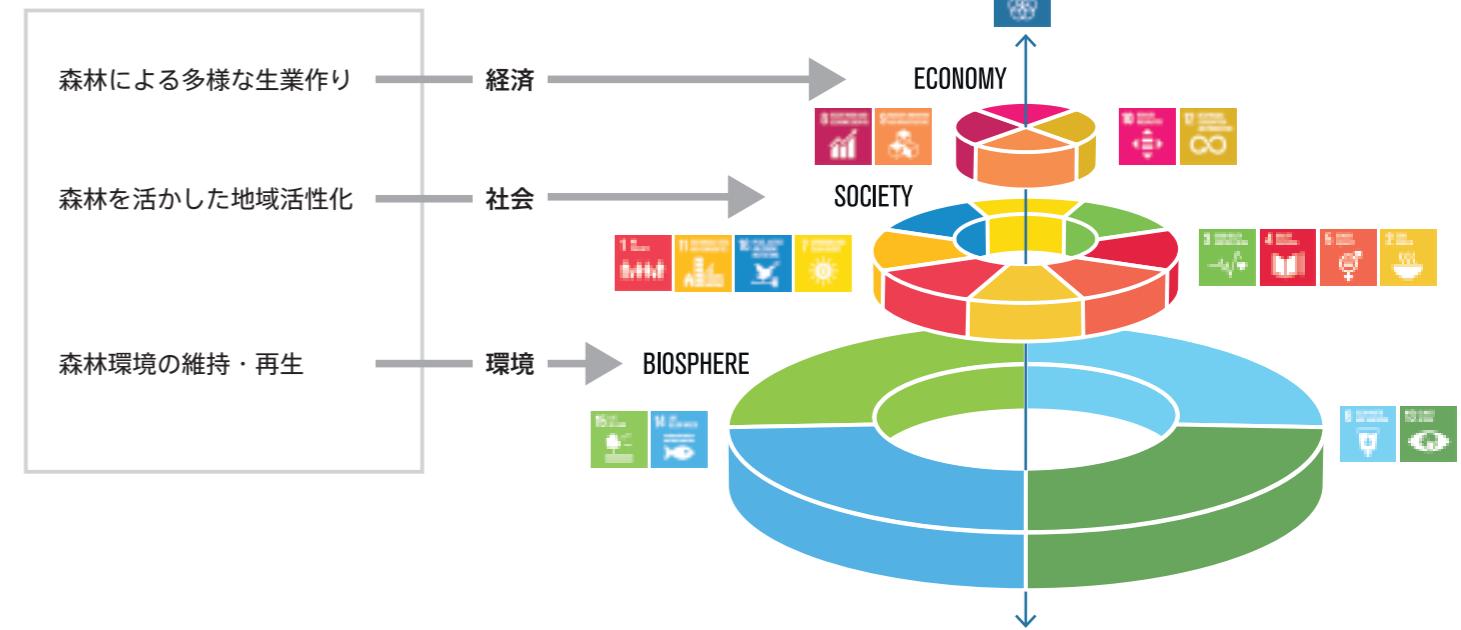
地域実装を通じて、将来に希望を持ち、森林と共生する新たなライフスタイルを歩み始めることを目指す

九州林業塾が推進する自伐型林業は、木材生産額を第一に追求するビジネスというよりは、経済・社会・環境の全方位でバランス良く、地域と人の持続的なウェルビーイング（※）を追求していく、地域コミュニティの営みです。

森林環境を守ることが、地域と人の幸福にもつながっていく。そんな新たな循環を生み出していくことを目指しています。

今回の事業ではそのファーストステップとして、地域の固定山林での営み作りを起点に、地域の人たちが「山と共にこんなふうに住らしていきたい」と自立的に行動を起こすきっかけを作ることができました。

自伐型林業の地域実装



図：持続的な経済と社会は持続的な環境基盤の上に成り立つという SDGs のウェディングケーキモデル

※ウェルビーイングとは：

「ウェル・ビーイング」とは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念であり、OECD が公表している“better life index”は、OECD が幸福に必要な不可欠と特定している物質的な生活条件（住宅、収入、雇用）と生活の質（共同体、教育、環境、ガバナンス、医療、生活満足度、安全、ワーク・ライフ・バランス [仕事と生活の両立]）（計 11 項目）から算出されている。《厚生労働省「雇用政策研究会報告書（2019年）」より》

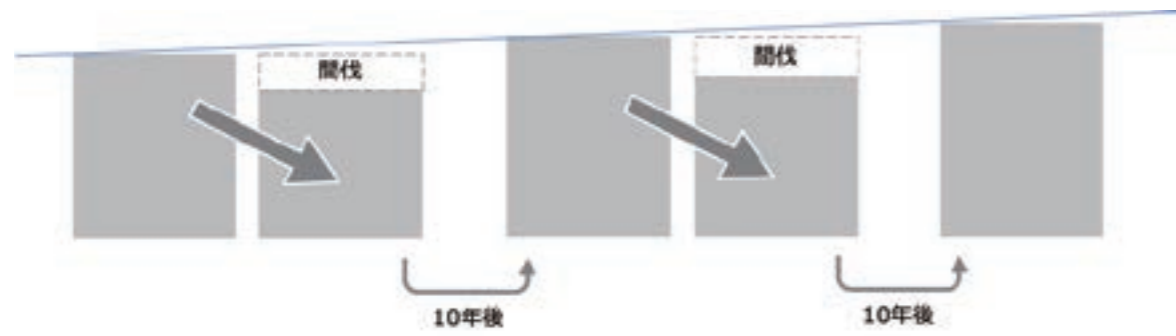
自伐型林業とは

適正な規模の限られた森林の経営や管理・施業を、山林所有者や地域住民（山守）が永続的に自ら行う、自立自営の林業です。100年以上の長期的視点で環境劣化を予防。過剰な風・水・光を抑制し、安全かつ効率的な管理施業を目指します。

最小限の機械化(3.5t以下のバックホー)で壊れない作業道(切高1.4m,幅員2.5m以内)を高密度(1ha当たり300m)に開設し、環境を変えない控えめな間伐(10年に1回、2割以下)を繰り返し、森を育てます。

これにより山の総材積(材木の体積)を増やしつつ、継続的に良木生産を行い、継続的な収入を得ながら、多世代にわたる持続的な森林経営を行います。

択伐多間伐で材積が増加していく仕組み
間伐で減る量 < 成長で増える量



10年に一度の間伐量を1~2割に抑えることで、本数は減っても総材積を増やしていくことができます。小さな作業道を入れると、山が見違えてきます。山が良くなっていくのを実感できる林業です。



施業前



施業後



施業前



施業後

人と自然の持続的な共生のために、

山への負担を最小限に、小さく・ゆるやかな介入で、森林環境の改善を目指します

機械も燃料も最小限、低い損益分岐点の低ノルマで、安全身軽な経営を目指します

水や風など自然の猛威を分散し、山だけでなく麓の里も永く守ることを目指します



自伐型林業を40年間続けてきた徳島県那珂町の山林(所有・管理:橋本光治氏)は、環境省の自然共生サイトに認定されました。

樹種は約250種類。生態系豊かな人工林として徳島大学も研究対象としています。

年間降雨量が全国平均の2倍の那珂町の中でも災害がなく、複層林が洪水予防効果を高めている(洪水ピーク流量が2割小さい)という研究結果も出されました。



間伐を続けていっても、山に木がなくなることはありません。豊かな土壌があれば、多様な樹種の次世代も適材適所で同時に育っていくからです。

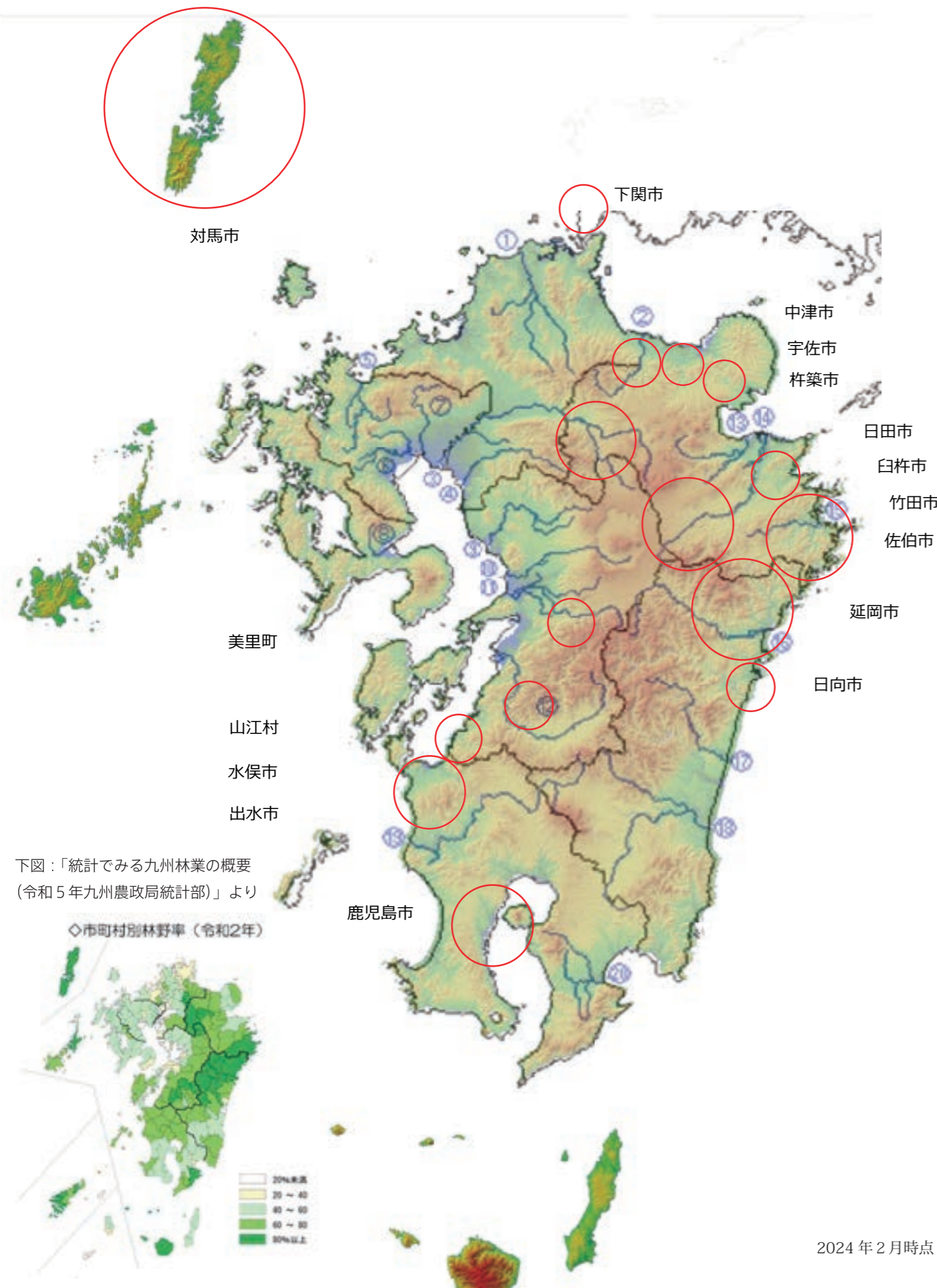
植林や下草刈りの負担もなく、自然に山は更新していきます。

永く使える高密度路網があることで、適切な時期の収穫を持続的に行うことができます。



九州林業塾メンバーの居住・活動エリア

九州の多様な環境で、自伐型林業への取り組みが広がっています。



九州林業塾 団体概要

沿革

- 2020年1月：九州地区自伐型林業連絡会を設立
- 2020年11月～2021年11月：1回目の休眠預金活用事業を実施
- 2022年7月：団体名称を九州林業塾に変更
- 2022年12月～2023年12月：2回目の休眠預金活用事業を実施

本事業での気づき

今、様々な地域で木材生産だけでなく森林の多面的機能への期待が高まっています。多彩な関係者との新たなつながりから、治水・防災・環境保護などの視点での山の価値が改めて見直されていることを実感しました。また地域の様々な課題が見えてきた一方で、自立自営で柔軟に動きやすい自伐型の林業家がそれらの解決に貢献していける可能性を感じられました。

今後の活動目的

自伐型林業とは、採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的森林経営で、比較的参入障壁が低く、幅広い就労が可能なため「地方創生の鍵」として期待されています。しかし全国各地で普及が推進されているのに対し、九州地区ではまだ新規就業の支援環境が整っていない状況です。そこで九州林業塾は、会員が連帯し、九州各地の現場の課題を「技術共有・情報共有・連携促進」で支援しあう活動を行います。自伐型林業の推進は手段であり、自伐型林業の手法を活かして森林の多面的機能を発揮・拡張していくことで、自然と共生した豊かな暮らしを追求していくことを目的とします。

今後の活動方針

- ・地域の人が自ら山や地域をつくるのが肝要であり、現場の自主性を第一とする
- ・自治体の助成への提言は継続する一方で、助成に頼らない収入源となり地域課題の解決にもつながる一石二鳥の仕事を探し、共有しあう
- ・既存の自伐型林業を超えて、さらに森林の多面的価値を発揮していくための取り組みも研究し、その技術やビジネスに関する情報を共有しあう

活動領域

- ①各地の活動情報の発信
- ②自伐型林業家・団体の活動支援
- ③自伐型林業家・団体とのネットワークづくりと交流支援
- ④または雇用機会の拡充を支援する活動

今後取り組みを検討している活動例

- ・自伐型林業の空白地を埋めていく活動
- ・自伐型林業を始めた人を継続的に支援しあう活動
- ・再造林、育林、針広混交林化、皆伐地再生の技術を研究し共有する活動
- ・広葉樹の価値向上の手法を研究し共有する活動
- ・森林サービス産業づくりを研究し共有する活動
- ・自伐型林業を応用した仕事の多様化を研究し共有する活動
- ・九州林業塾の活動経費を確保するための活動

会員構成 (2024年2月時点)

- 団体会員：4団体
- ・下毛の里自伐型林業研究会
 - ・延岡自伐型林業研究会
 - ・株式会社イーサイドライン
 - ・株式会社ウッドライフ

個人会員：8人

会員募集中

年会費：団体会員 5,000円、個人会員 2,000円

山守を目指す方へ

自伐型林業を始めませんか？

自伐型林業を始める人が九州でも増えてきています。

生業として関心のある方は、九州林業塾にお問い合わせください。

各地のネットワークで、相談に応じます。

未経験から、できる

九州各地での研修や連携の体制があり、未経験から始められます。必要な初期投資は 300-500 万円（チェーンソー、バックホウ、林内作業車、軽トラ程度）。今回の休眠預金活用事業での研修後、自伐型林業家として所有林で施業を開始した研修生もいます。

複業で、できる

短期サイクルで再造林する林業は夏に下草刈りが必要ですが、長伐期択伐の自伐型林業は間伐の秋冬がメインシーズン。このため農業・観光・アスリート・土木・IT 等と組み合わせた多様な複業スタイルが可能です。

安全に、できる

自立自営のためノルマに追われず、安全を確保できる自分のペースで施業可能。作業道が高密度だからこそバックホウで伐倒や搬出もサポートでき、安心です。道と機械で、女性や定年後シニアのような体力でも無理せず永く続けられます。



山林管理にお悩みの方／森を活用したい団体さんへ

所有者にも地域にも大切な山林の管理手法について、自伐型林業を検討してみませんか？

森が育つには永い年月がかかるからこそ、慎重な判断が必要ではないでしょうか。

放置林もあきらめずに、九州林業塾にご相談ください。

九州の自伐型林業ネットワークの窓口としてサポートいたします。

所有林で生産したい

山守委託または自ら生産をしたい個人山主や、長伐期多間伐林業の担い手を確保したい林業事業者／生産森林組合の方の、山づくりをネットワークでサポートします。

健全な森を作りたい

遊休の社有林を活かして環境貢献をしたい企業や、地元雇用で保安林を整備したい自治体の皆様からの相談を承ります。

地域の森と連携したい

森林という空間を利用した「森林サービス産業」の事業に関心がある健康・教育・観光等の異業種の方と、地域の自伐型林業のマッチングをサポートします。

寄付で支援したい

地元人材による長期的な森林管理を行う自伐型林業への支援により、環境と地方創生の両方に貢献できます。ご支援を希望する内容に応じて、寄付先団体をご紹介します。

九州林業塾お問い合わせ窓口

メールアドレス qsyuringyojyuku@gmail.com

令和 5 年度九州林業塾役員

会長 佐伯卓信（延岡自伐型林業研究会会長）

副会長 梅木長二郎（下毛の里自伐型林業研究会会長）

事務局長 野々下博司（延岡自伐型林業研究会事務局長）

事務局次長 福田祐一（下毛の里自伐型林業研究会事務局次長）

監査 加来健功（自伐型林業を守る会会長）

令和 4 年度休眠預金活用事業「九州林業塾」報告書

2024 年 2 月 発行

発行 九州林業塾

発行人 佐伯卓信

©九州林業塾 本書の無断複写・複製・転写を禁じます。



九州林業塾のロゴをリニューアル

道づくりをシンボルとしたこれまでのロゴから、連携をイメージしたロゴへ。技術指導を超えて、地域との連携・地域同士の連携をより一層強めていきます。

星型多角形の9個の角は九州を表し、メビウスの輪のように表と裏がつながっています。林業にある様々な「溝」を超えて、新たなつながりを作っていくことを目指しています。

山は3段重ねで、山守（道が入っています）・山主・山里のつながりを表しています。そうしてつながる地域を増やして面的に広がっていくことを目指しています。